

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成23年8月25日(2011.8.25)

【公表番号】特表2007-515416(P2007-515416A)

【公表日】平成19年6月14日(2007.6.14)

【年通号数】公開・登録公報2007-022

【出願番号】特願2006-544258(P2006-544258)

【国際特許分類】

C 0 7 C 319/28 (2006.01)

C 0 7 C 319/08 (2006.01)

C 0 7 C 321/04 (2006.01)

【F I】

C 0 7 C 319/28

C 0 7 C 319/08

C 0 7 C 321/04

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年6月28日(2011.6.28)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 2】

例えば、欧州特許第0850923号明細書の記載により得られた、次の組成：メチルメルカプタン～93質量%、硫化ジメチル～4.5質量%、ジメチルエーテル～1.5質量%、水～1質量%および痕跡のメタノール、またはメチルメルカプタン～93質量%、硫化ジメチル～93質量%、二硫化ジメチル0.2～1質量%、ジメチルエーテル0.5～3質量%、水～1質量%および痕跡のメタノールを有する粗製メチルメルカプタンを、1～8を介して、14.5～72.5 psi (1～5バール)の圧力およびドイツ連邦共和国特許第2320544号明細書の記載と同様の50～120の温度でMMPと一緒に、周期的に運転される反応器R1に添加する。MMPへの変換に必要なとされるアクロレインの供給は、ストランド2により行なわれ、それぞれの触媒の混合(フランス国特許第1520328明細書の記載と同様にピリジンと酢酸との混合物、または有機塩基と有機酸との混合物)は、3により行なわれる。更に、その後、反応混合物は、14.5～43.5 psi (1/3バール)の圧力および90～135の温度でカラムK2(理論的棚段の数：15段)中で前記アルデヒドの不活性化化合物から4を介して分離され、この不活性化化合物は、後使用のために5を介して添加される。必要な場合には、望ましくない混合の除去は、不活性の共沸剤、例えば窒素、二酸化炭素または蒸気、好ましくは窒素の付加的な補助によって7を介してさらに改善されうる。得られた生成物は、6を介して後使用のために添加される。使用された粗製メチルメルカプタンに対して、分離収率は、あたかも定量的に、即ち99.9%超である。